

防災だより

平成29年11月号

平成29年11月15日発行
愛知県立岡崎北高等学校
総務部編集

☆今回のテーマ 応急手当

災害時は、救急車がかけつけられないことも考えられます。自分は無事でも周りの人がけがをしている場合、どうすればよいのでしょうか。今回は応急手当について学びましょう。

1 切り傷などによる出血

大きな傷の場合

- 【1】出血しにくくするために、傷を心臓より高い位置へ上げる。
- 【2】ガラス、金属などの異物はガーゼでそっと取り除く。深く入ってしまったものは無理に取らない。水や消毒薬は使わない。
- 【3】止血する。傷口に異物が残っている時は、異物をなかに押し込まないように注意して圧迫する。
※感染予防のため、血液には直接触れないようにする。できればゴム手袋やビニール手袋を使用する。
- 【4】以上の手当をしたら、すぐに病院を受診する。

小さな傷の場合

- 【1】水道水で十分に洗い流す。
- 【2】傷口に砂や土などがくい込んで取れない場合、奥に押し込めないように洗い流す。
- 【3】清潔なガーゼをあてて絆創膏や包帯で止めるか、救急絆創膏を貼っておく。



2 やけど

ただちに水道水を流しながら、洗面器などに患部をつけて痛みが治まるまで冷やす。

- 氷嚢や蓄冷剤などを使うときは、清潔なタオルなどにつつんで患部にあてる。
- 皮膚に衣服がくっついていいる時は脱がさず、そのまま冷やす。その部分を残してはさみで衣服を切り取る。
- 指輪、腕時計など装身具はすみやかにはずす。
- 軟膏、消毒薬など何も塗らない。
- 水ぶくれはつぶさない。
- 十分に冷やしたら清潔なガーゼなどをあてて、すぐに病院を受診する。



3 骨折

副え木の使い方

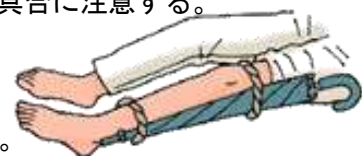
- 利用できる物……割りばし、ものさし、鉛筆、板、木の枝、傘、ステッキ、ストック、毛布、シーツ、バスタオル、座ぶとん、新聞紙、雑誌、ダンボール など
- 副え木は骨折部の両側の関節を超える長さが必要。
- 副え木の上に布をのせたり巻いたりして、骨折部との間にクッションをつける。副え木と体との間に大きな隙間があれば、タオルなどを詰めて、動かないようにする。
- 固定がきつすぎると骨折部から先に血行障害を起こすので、しめ具合に注意する。

【1】骨折部、その上下の関節を動かさないように安静にする。

【2】出血していれば、止血する。

【3】骨がとび出していたり、骨折部が変形していても、無理に直さない。

【4】骨折部を中心に前後の関節を副え木で固定し、骨折部に負荷がかからないようにして、できるだけ早く整形外科へ。



(g00ヘルスケアより)